

女神さま・オープン(3ヵ月決算型)の運用状況

米国連続増配成長株オープン(3ヵ月決算型) 愛称 女神さま・オープン(3ヵ月決算型)
追加型投信／海外／株式

2020年9月30日

当レポートでは、米国株式市場と今後の見通し、及び当ファンドの運用方針についてお伝えいたします。

5ヵ月連続上昇の反動により下落

9月の米国株式市場は下落しました(9月24日現在)。8月まで5ヵ月連続で上昇していたことから、利益確定の動きに押される展開となりました。また、米議会で協議されている追加の景気刺激策について、共和党案と民主党案との溝が大きく、成立が難航していることが売り材料となりました。

業種別では、全てのセクターが下落しました。特に、石油輸出国機構(OPEC)が2021年の原油需要見通しを引き下げたことが嫌気されたエネルギーセクターや、前月まで大きく上昇していた情報技術セクターなどの下落が大きくなりました。一方、住宅向け需要が好調な建設資材株を中心に素材セクターや、生活必需品セクターなどは市場平均を上回りました(図表1)。

成長株と割安株の乖離

図表2は、年初からのS&P500種指数と成長株指数及び割安株指数のパフォーマンスです。S&P500種指数は、2020年2月から3月にかけて急落した後、3月後半からは反発に転じました。9月は下落したものの、年初来のパフォーマンスはプラスとなっています(9月24日現在)。

一方、同指数を成長株(グロース)と割安株(バリュー)で比較すると、成長株の年初来パフォーマンスは2桁の上昇となっているのに対し、割安株は2桁の下落となっており、成長株が大きくアウトパフォームしています。

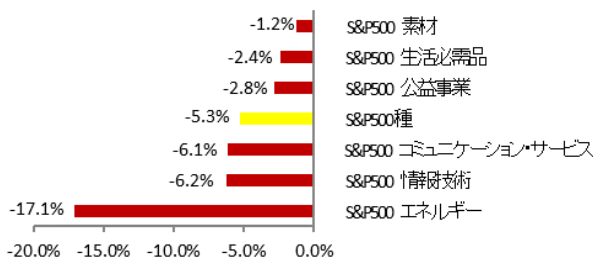
乖離の主な要因は、両指数のセクター構成比にあると考えられます。成長株には、テクノロジーセクターに個社要因で収益拡大が可能な銘柄が多く含まれるのに対し、割安株には、金融セクターなど業績が景気動向や金利環境の変動を受けやすい企業の割合が多く、コロナ禍による悪影響がより大きいと考えられます。今後、割安株のパフォーマンスが改善し、成長株との差が縮小していくためには、追加の経済対策などによって景気回復への期待が一段と高まる必要があると考えています。

当面は成長株優位の展開が続く見通し

図表3は、S&P500種指数と成長株指数及び割安株指数の予想1株当たり利益(EPS)成長率の四半期別推移です。S&P500種指数は、2020年第4四半期までは前年比で減益予想が続き、増益に転じるのは、2021年以降と予想されています。それに対し、成長株は、2020年第3四半期は小幅の減益予想ですが、同年第4四半期以降は増益が予想されています。一方、割安株は2020年下半期は厳しい減益が続き、2021年第1四半期は増益が予想されているものの、他の指数を下回る増益率となっています。

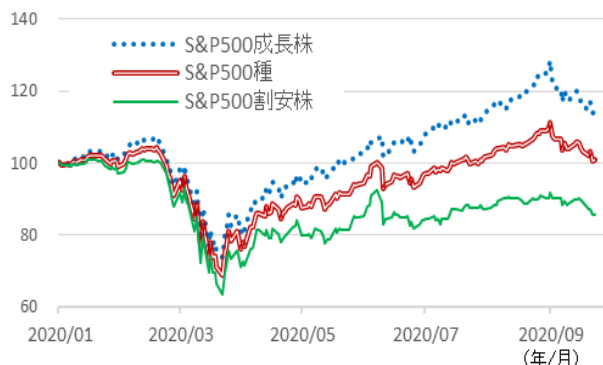
上記の通り、業績見通しにおける成長株の優位が続くことから、当面は成長株のアウトパフォームが継続するものと想定しています。

図表1 S&P500種指数のセクター別リターン上位下位3セクター
(2020年8月24日～2020年9月24日、米ドルベース、配当込み)



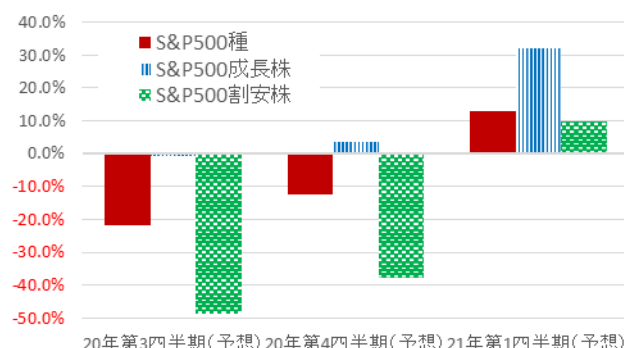
(注) セクターはGICS(世界産業分類基準)ベース

図表2 S&P500種、成長株、割安株指数のパフォーマンス推移
(2020年1月2日～2020年9月24日、日次、配当込み、米ドルベース)



(注) 2020年1月2日を100として計算

図表3 S&P500種、成長株、割安株指数の予想EPS成長率
(2020年9月25日時点、四半期別、対前年比、米ドルベース)



(注) S&P Dow Jones Indices LLCの各インデックスは、S&P Dow Jones Indices LLCが発表しており、著作権はS&P Dow Jones Indices LLCに帰属しています。
(出所) 図表1, 2, 3はBloombergデータより、岡三アセットマネジメント作成

＜本資料に関してご留意いただきたい事項＞

■本資料は、「米国連続増配成長株オープン(3ヵ月決算型)」に関する情報提供を目的として岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、ファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものではありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みに当たっては、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客ご自身で行っていただきますようお願いいたします。

米国連続増配成長株オープン(3ヵ月決算型) 愛称 女神さま・オープン(3ヵ月決算型)
追加型投信／海外／株式

運用状況 (作成基準日 2020年9月28日)

設定来の基準価額の推移



※基準価額は1万口当たり、信託報酬控除後です。
※分配金再投資基準価額とは、設定来の分配金(税引前)を当該分配金(税引前)が支払われた決算日の基準価額で再投資したものと計算した基準価額です。
※グラフは過去の実績であり、将来の成果を示唆または保証するものではありません。

ファンドデータ

基準価額(円)	9,841
残存元本(口)	1,061,903,033
純資産総額(円)	1,044,969,053
実質株式組入比率(%)	92.0
短期金融商品その他(%)	8.0
組入銘柄数	70

直近7決算期	分配金(円)
第18期(2020年9月28日)	0
第17期(2020年6月26日)	0
第16期(2020年3月26日)	0
第15期(2019年12月26日)	450
第14期(2019年9月26日)	0
第13期(2019年6月26日)	0
第12期(2019年3月26日)	0

※比率は、小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。
※各決算期における分配金は1万口当たり(税引前)です。

組入上位10業種

	セクター名	比率
1	ソフトウェア・サービス	12.2%
2	各種金融	10.8%
3	ヘルスケア機器・サービス	10.1%
4	資本財	9.5%
5	小売	5.7%
6	公益事業	4.8%
7	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	4.7%
8	保険	4.7%
9	半導体・半導体製造装置	4.4%
10	メディア・娯楽	4.3%

※比率は、米国連続増配成長株マザーファンドの純資産総額に対する組入比率です。

組入上位10銘柄

	銘柄名	セクター	比率
1	S&Pグローバル	各種金融	3.5%
2	ネクステラ・エナジー	公益事業	3.2%
3	ティー・ロウ・プライス・グループ	各種金融	2.7%
4	ドーバー	資本財	2.6%
5	サーモフィッシャーサイエンティフィック	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	2.5%
6	ビザ	ソフトウェア・サービス	2.2%
7	マイクロソフト	ソフトウェア・サービス	2.0%
8	アマゾン・ドット・コム	小売	2.0%
9	プロクター・アンド・ギャンブル(P&G)	家庭用品・パーソナル用品	1.9%
10	SVBフィナンシャル・グループ	銀行	1.8%

足元の運用経過と運用方針について

足元の運用につきましては、動画配信サービスが成長ドライバーとして期待されるメディア・娯楽株の買付けを行いました。一方、株価バリュエーション面の割安感が低下したと判断した医薬品・バイオテクノロジー株の一部を売却しました。

今後の米国株式市場は、米国大統領選挙を控えて投資家の様子見姿勢が強まることから、市場全体としては方向性の定まらない展開を想定しています。10月後半以降は、業績発表が本格化する2020年7～9月期の業績を受けて、個別銘柄を物色する動きが強まると予想します。

当面の運用につきましては、ソフトウェア・サービス株や各種金融株を高位にウェイト付けします。また、値上げによる利益押し上げ効果が株価に織り込まれていないと考えられる輸送株の買付けを検討します。

当ファンドは2020年9月28日に決算を迎え、今期の分配金は見送りとさせていただきます。

(作成:運用本部)

<本資料に関してご留意いただきたい事項>

■本資料は、「米国連続増配成長株オープン(3ヵ月決算型)」に関する情報提供を目的として岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、ファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものではありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みに当たっては、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。



米国連続増配成長株オープン(3ヵ月決算型) 愛称 女神さま・オープン(3ヵ月決算型)
追加型投信／海外／株式

米国連続増配成長株オープン(3ヵ月決算型)に関する留意事項

【岡三アセットマネジメントについて】

商号：岡三アセットマネジメント株式会社

岡三アセットマネジメント株式会社は、金融商品取引業者として投資運用業、投資助言・代理業および第二種金融商品取引業を営んでいます。登録番号は、関東財務局長（金商）第370号で、一般社団法人投資信託協会および一般社団法人日本投資顧問業協会に加入しています。

【投資リスク】

- 投資者の皆様は投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。投資信託は預貯金と異なります。投資信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者の皆様へ帰属します。ファンドは、米国の株式等価値のある有価証券等に投資しますので、組入れた有価証券等の価格の下落等の影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資しますので、為替相場の変動により損失を被ることがあります。
 - ファンドの主な基準価額の変動要因としては、「株価変動リスク」、「為替変動リスク」、「信用リスク」があります。その他の変動要因としては「流動性リスク」、「カントリーリスク」があります。
- ※基準価額の変動要因は上記のリスクに限定されるものではありません。

【その他の留意点】

- ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリングオフ）の適用はありません。
- 投資信託は預金商品や保険商品ではなく、預金保険、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関が取扱う投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。
- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合があるため、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。また、投資者の購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりがあった場合も同様です。
- ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行います。ファンドが投資対象とするマザーファンドを他のベビーファンドが投資対象としている場合に、当該他のベビーファンドにおいて追加設定および一部解約等がなされた場合には、その結果として、マザーファンドにおいても売買等が生じ、ファンドの基準価額に影響を受けることがあります。
- 取引所における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金申込みの受付を中止することや、すでに受付けた購入・換金申込みの受付を取消すことがあります。
- 詳しくは、「投資信託説明書（交付目論見書）」の「投資リスク」をご参照ください。

【お客様にご負担いただく費用】

＜お客様が直接的に負担する費用＞

- 購入時
購入時手数料：購入価額×購入口数×上限3.30%（税抜3.0%）
詳しくは販売会社にご確認ください。
- 換金時
換金手数料：ありません。
信託財産留保額：ありません。

＜お客様が信託財産で間接的に負担する費用＞

- 保有期間中
運用管理費用（信託報酬）： $\text{純資産総額} \times \text{年率} 1.595\%$ （税抜1.45%）
- その他費用・手数料
監査費用： $\text{純資産総額} \times \text{年率} 0.0132\%$ （税抜0.012%）
- 有価証券等の売買に係る売買委託手数料、信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、海外における資産の保管等に要する費用等を信託財産でご負担いただきます。なお、マザーファンドの当該費用につきましては、間接的にご負担いただきます。（監査費用を除くその他費用・手数料は、運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことはできません。）
- お客様にご負担いただく費用につきましては、運用状況等により変動する費用があることから、事前に合計金額もしくはその上限額またはこれらの計算方法を示すことはできません。
- 詳しくは、「投資信託説明書（交付目論見書）」の「手続・手数料等」をご参照ください。

米国連続増配成長株オープン(3ヵ月決算型) 愛称 女神さま・オープン(3ヵ月決算型)
追加型投信／海外／株式

2020年9月30日現在

販売会社

(受益権の募集の取扱い、投資信託説明書(交付目論見書)、投資信託説明書(請求目論見書)及び運用報告書の交付の取扱い、解約請求の受付、買取請求の受付・実行、収益分配金、償還金及び解約金の支払事務等を行います。)

商号	登録番号	加入協会			
		日本証券業協会	一般社団法人 日本投資顧問業協会	一般社団法人 金融先物取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品取引業協会
(金融商品取引業者)					
岡三オンライン証券株式会社	関東財務局長(金商)第52号	○	○	○	
阿波証券株式会社	四国財務局長(金商)第1号	○			
エース証券株式会社	近畿財務局長(金商)第6号	○			
株式会社SBI証券	関東財務局長(金商)第44号	○		○	○
三縁証券株式会社	東海財務局長(金商)第22号	○			
島大証券株式会社	北陸財務局長(金商)第6号	○			
東武証券株式会社	関東財務局長(金商)第120号	○			
光証券株式会社	近畿財務局長(金商)第30号	○	○		
松井証券株式会社	関東財務局長(金商)第164号	○		○	
楽天証券株式会社	関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○
(登録金融機関)					
株式会社神奈川銀行	関東財務局長(登金)第55号	○			
株式会社ジャパンネット銀行	関東財務局長(登金)第624号	○		○	
株式会社福邦銀行	北陸財務局長(登金)第8号	○			

<本資料に関するお問合わせ先>

フリーダイヤル 0120-048-214 (9:00~17:00 土・日・祝祭日・当社休業日を除く)